

さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。

これを世界にたとえ、さまざまな果実（人々）の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



(左上)岡田守弘 先生:愛知淑徳大学助教

(左下)中島正博 氏:スノーフレイク・コンサルティング合同会社代表
※P. 3参照

(右上)さんぐりあ編集委員:内藤壽久

特集

非営利活動に、生成AIという新しい道具箱

近年、ChatGPTやMicrosoft Copilotなど生成AIが注目を集め、ニュースやネットで見にする機会が増えています。その有用性は認識されつつも、効果的な使い方に悩む方も多いのではないのでしょうか。2025年5～7月、名古屋NGOセンターの後援のもとオンラインで非営利組織向け「生成AI活用セミナー」が開催されました。本稿では、セミナーの概要と、非営利活動分野における生成AIの可能性について紹介していきます。

非営利活動に、生成AIという新しい道工具箱

題名を生成AIで

今回の特集の題名ですが、これは実は生成AI（Microsoft Copilot）で作成していただきました。AIに対する指令の指示文（以降プロンプト）で「名古屋NGOセンターの『さんぐりあ』という雑誌の特集の題名で『生成AI』『非営利活動』などをキーワードに親和性の高い感じで10個くらい良いのを提案してみてください」とお願いしましたら、表紙にある表のように挙げてもらいました。通常でしたら自分の頭で考えて候補を挙げるだけでも数時間程度はかかるのですが、生成AIを活用するとプロンプトを考えるのに5分^{プラス}候補を挙げてもらうのは瞬時（30秒弱）でその差は歴然としています。ただ、最後にどれを選択するかは人の力で行う必要があり、編集委員で相談して決めました。ここでは更に約5分かかっておりました。

手始めに、生成AIの特徴や効果について特集の題目を一例に簡単に紹介しましたが、本特集内では更に詳しく非営利活動への活かし方などを紹介していきます。

なお、これ以降は生成AIではなく編集委員（以降筆者）による自筆寄稿ですので、ご安心下さい（笑）

■非営利活動分野にどう活かす？

まず一番気になる費用面に関してですが、生成AIには無料版と有料版が存在します。無料版は、広報文作成・翻訳・企画アイデア出しなどに有効で、人的・予算的制約下でも十分活用可能です。一方有料版では画像解析やファイル要約、構成力の高い提案書作成などが可能となり、業務の質と効率が向上します。まず無料版で活用範囲を見極め、成果や課題に応じて段階的に有料版へ移行することで費用対効果を最大化できますので、状況に合わせて導入検討すると良いかと思います。

次に非営利活動で良く行われる以下4つの内容に関して生成AIでの具体的な活用事例を紹介します。

1. 計画立案

例えば、小学校のPTA総会の資料を読み込ませて次年度活動計画を立案してもらうことが可能です。

2. 助成金申請

団体情報をインプットさせた後、対象となる助成金をリサーチし、助成金申請内容を更に生成AIに理解させて助成金申請書類を作成できます。（必要書類確認、企画立案、必要記入項目の作成など）

3. 企画・告知（チラシ作成など）

チラシに必要な情報を選出し、原稿作成、チラシ全体のイメージ画像、中身の個々の画像を作成しCanvaなどでデザイン編集を行い完成させる。

4. SNSなどの情報発信

複数案件の投稿計画の作成、画像とその説明文章の作成を行えます。

他にもプレスリリースやブログ原稿の作成、HPに必要な画像作成、文脈や語調を理解し、人間らしい言い回しの翻訳で海外支援者とのコミュニケーション強化なども行えます。

ここまでで生成AIのメリットや効果について述べてきましたが、注意点も勿論あります。大きくはデータの取り扱いと法的なリスクの2点が挙げられます。前者は多くの生成AIの無料版やChatGPTの個人向け有料プランは、初期設定では生成AIとのやりとりがAIのさらなる発展のための学習に用いられることから、他の誰かへの質問回答にも使用されるリスクがあるため、情報流出の恐れにもつながりますし、機密情報管理などは徹底が必要になります。後者としては著作権、特許権、肖像権侵害が挙げられ、特に昨今某アニメスタジオの画風を模倣した画像の生成が問題視されましたが、作風（色調、世界観、雰囲気）を取り入れるところまでは大丈夫ですが、具体的なキャラクターやシーンの再現などは抵触する可能性がありますので、十分に注意する必要があります。

■生成AIを活用してみよう

実際に研修を受けたのち、早速ですが筆者も自宅のパソコンにて生成AI（Microsoft Copilot）を使って助成金申請に向けて、該当する助成金調査を行ってみました。

結果は瞬時に出来て、以下表のようにまとめてもらいました。その後、真偽確認の為にいくつかのサイトを無作為に閲覧しましたが、内容は一致しており、ここまでで2時間くらいで完了となりました。

助成金名	対象地域	対象者	募集期限	調査サイト	詳細
助成金1	全国	NPO法人・社会福祉団体	2025年6月30日	サイト①	詳細
助成金2	全国	地域支援団体	2025年6月30日	サイト①	詳細
助成金3	全国	社会福祉団体	2025年6月30日	サイト②	詳細
助成金4	全国	児童福祉団体	2025年6月30日	サイト②	詳細
助成金5	全国	地域支援団体	2026年3月20日	サイト②	詳細

これまでの自力での調査

でしたら、各サイトを隅から隅まで閲覧しつつ該当するか否かも吟味して必要情報を抜粋転記するのに約1週間要しておりました。それに比べたら圧倒的に時間短縮ができたと感じました。非営利活動の分野以外では筆者の仕事でも試しに活用してみましたが、プロンプトで予め生成AIに専門家になり切らせると、更に期待した回答が得やすくなりました。例えばですが、「あなたは大学の工学部教授です」と前置きして質問すると期待通りの学術的な回答が返ってきて、更には文献も添えてもらえるので真偽も即判断しやすくなりました。ただ一方で大量の依頼や情報を投げ込むと回答が大雑把になってきたりもするので、人間臭さがあって面白い結果でした。

■生成AIでの非営利活動への活用の期待や展望

セミナーを終えた翌月に、筆者と以下お二人とで「生成AIでの非営利活動への活用の期待や展望」と題してオンラインでの座談会を実施しました。 ※表紙写真

岡田守弘（おかだ もりひろ）先生

愛知淑徳大学助教。NPO や国際協力に従事し、地域連携・社会貢献活動を実践・研究。過去に NGO 職員としての経験も有。

中島正博（なかじま まさひろ）氏

スノーフレイク・コンサルティング合同会社代表。中小企業や非営利団体向けにマーケティング戦略と生成 AI 活用支援などを展開。

O：岡田先生、N：中島氏、S：さんぐりあ編集委員（筆者）

<セミナー開催の背景と生成AIへの期待>

S：今回のセミナーですがどのような経緯で行うことになったかをまずはお聞きしてもよろしいでしょうか？

N：今回のセミナーは、名古屋NGOセンターから助成金審査員の依頼を受けたことがきっかけでした。申請や報告書作成の負担が大きく、本来の活動に集中できないという声が多いと聞きました。その場で私が「生成AIでやれば良いのではないですか？」と言いましたら、「できるならや

りたいです」と返されました。そこから発展して今回のセミナーにつながりました。また子どもの小学校のPTA活動の中で非効率さを感じていて、非営利活動団体にも共通する課題だと思いました。

O：私も元はNPO職員で、ファンドレイジングや情報通信技術（以下ICT）による業務効率化、デジタルツールの導入支援などもおこなっていました。近年、生成AIの進化と発展が目覚ましいので、どのようにNPOの業務に導入されていくか、またはされないのか、動向を追いたく、セミナーに参加させていただきました。非営利組織の実態調査では、人材や資金調達が課題としてよく挙げられますが、生成AIをうまく活用すれば、そうした課題の解決に役立つのではないかと期待しています。

S：それでは本題に入りますが、生成AIを使って非営利活動に対してどのような可能性が生じられるとお考えでしょうか？

N：生成AIで事務的作業を効率化できれば、本来注力すべき団体活動に集中できて社会的インパクトも広がるはずと感じています。

O：非営利活動団体は人手不足と資金不足がトップ2の課題でしてこれを解消していく上では生成AIは有効と考えています。

S：国内の非営利活動でAIが使われている事例は聞いたことがありますでしょうか？

N：営利・非営利に関わらずですが、あまり事例を出したところが多く、非営利活動団体での事例記事は見つからないです。

O：医療分野では論文執筆などにAIが使われている事例はありますが、非営利活動団体ではまだ水面下での活用が多い印象です。

<導入の障壁と現場のリアル>

S：導入の障壁としてはどのようなことが想定されますか？

N：専門部署がないことや情報セキュリティへの懸念があるのではと思っています。職員が勝手に使い始めるケースもありえますので、まずはガイドライン整備が必要だと思います。また、非営利活動団体では総務がすべての業務を担っていることが多く、戦略的な導入が難しいと思います。ただそれは中小企業でも同様に言える課題とも言えます。

Q: ツール選定のミスマッチもありますね。例えばChat-GPTを試してみたけど期待する回答が返ってこないと「使えないな」と判断してしまう。そうすると他の選択肢を探す前に諦めてしまうこともあり得るのかな?と思っています。

S: だからこそ、セミナーなどを通じて生成AIの実態を理解し、少しずつ慣れていくことが重要なのです。伴走支援は企業単位では難しいので、業界団体やリーディングカンパニーが社会貢献として支援する仕組みが今後必要なのではと思いますが、如何でしょうか?

N: 生成AIに詳しくて、非営利活動団体支援の経験がある人材は希少な存在です。その上無償でやるとなると、更にハードルが高くなると思います。オンラインカリキュラムを自分たちで学び、必要なときに外部に相談する形が現実的かもしれませんね。

S: ホームページ更新も以前は企業に任せていたケースが多かったですが、今は自分たちでやらなきゃいけない。更新費用がなくて助成金頼みの繰り返しになっている団体も多いです。

Q: 最終的には自分たちで運用できるようになるのが理想ですね。助成金を活用して、研修やツール導入を行うのも一つの手ですが、申請自体が負担になることも同時にありますね。中間支援団体もありますが、講座が有料だったり、個人の関心に依存していたりして、組織全体の底上げには繋がりにくい面もあります。

<持続可能な導入と組織文化への配慮>

Q: 技術導入の際には、経営層と現場職員で重視するポイントが違うこともあります。だからこそ、対象に応じたアプローチが必要だと思います。

S: そのギャップは非営利でも営利でも共通していて、私も団体によって提案のアプローチを変えることもあります。

N: 生成AIは進化が早いので、小規模な団体は最新情報を追いつながら導入するのは至難の業だと思いますので外部との連携していくことも視野に入れる必要があるかもしれませんね。ツール選定から研修、モニタリングまで含めると、内部だけで完結するのはほぼ不可能です。100人以下の組織ではまず無理だと思います。今は余裕のある大企業が先行して導入しているのが現状です。非営利にアプローチしている企業は少ないですが、そういう人材がもしも近くにいらっしゃいましたら是非とも頼るべきかと思います。

S: 広がりという意味では私は非営利の方が早いのではという期待があります。これまでもZoomやLINE、kintoneなどを

積極的に使っていたのは、私の周りでは非営利の人たちが多かったです。

N: 人的サービスが中心の非営利は、生成AIの適用範囲が広く、導入効果も出やすいと私も思います。

Q: その際には中立的な立場の人が必要だと思います。導入時の意見衝突を避けるためにも、プロボノやボランティア経験のある企業人が関わるのは意義深いと思います。

S: ただ、そういう人材がどれだけ供給できるかも課題ですね。企業側の生成AIに対する理解もまだまだ追いついていない部分もあります。

N: 技術面だけでなく、非営利活動への理解も必要だと思います。ビジネス的な視点だけで支援すると、上手いかわからないケースも多々ありました。

S: 社員個人の意欲はあっても、部門長の理解がないと活動が止まってしまうこともあります。結局、組織の文化や意思決定の仕組みが鍵なのですね。

Q: 私の経験から言っても、NPOには外部の力が必要だと思います。以前、臨時職員の立場でTeamsやSlackを導入したことがあります。業務に精通し、ICTにも強い人材でないと対応が難しいと感じました。導入時には内部での衝突も起きやすいと思います。そういった意味でも中立的な立場で橋渡しできる外部人材の存在は非常に意義深いと思います。

N: ただ、導入後も気を付けないといけない点がありまして、生成AIを活用しすぎるとこれまで苦労して得られた感情報酬が低下してしまい、やりがいも低下してしまうリスクも挙げられます。非営利活動は特に感情的な充足を得ることが重要な分野ですので注意は必要ですね。

S: 生成AIは効率化だけでなく、やりがいを損なわない使い方が大事なのですね。感情報酬が活動の原動力になっていることを忘れずに生成AIとは上手に付き合っていきたいですね。

中島さん、岡田先生ありがとうございました。

生成AIは人間の脳の動きや振る舞いを再現しようと設計されています。従って、人間が間違えることは生成AIも間違える可能性があるということも言えます。

AIは有能なパートナーでありアシスタントになりますが、それが生み出す成果物は、自分自身の責任で内容を確認し、「自分の仕事」「自分の作品」「自分の思い」として世に出すことを忘れないようにして、上手に付き合っていくべき存在だと思います。

(担当:内藤)

「書ける住所がない」ことで孤立している

女性や子どもたちが、あなたのそばにもいます。子どもが「ただいま!」と帰ってきて、ご飯を食べて眠る…そんな当たり前を失ってしまった親子を、私はたくさん見てきました。実は私自身も二人の娘を育てるシングルマザーで、離婚を機に「住む家を追われるかもしれない」という不安を経験しました。行政の手続きを知らずに必要な支援にたどり着けなかったこともあります。自分も迷った経験があるからこそ、「次は私が支える番だ」と心に決め、困っている家庭の背中をそっと押したくて、仲間とともに活動を続けています。

暮らしの多くの場面で求められる「住所」。DVから逃れていて住所を秘匿する必要があるなど、行政書類等に『書ける住所』がないと、保育園に預けることも、働くこともできません。そして、収入がなければ、家を借りることができません。日本の住所主義は、親子の見えない孤立の要因になり、こうして親子は負のスパイラルに陥ってしまいます。

エッセイ NGOの散歩道 第42回

「シングルマザーと子どもたちに「住まい」と「つながり」を届ける」

見えない孤立に灯りを

住まいが決まっても、頼れる人がいなければ暮らしは安定しません。だから私たちは、住まい探しから入居後の生活までワンストップで伴走します。入居後は定期的な面談と見守りを続け、行政の申請は、書類の準備から窓口での相談同行までサポートします。面談では困りごとと一緒に整理し、無理のないペースで「今できること」から進めていきます。必要に応じて就労・教育・医療・法律などの専門窓口へ橋渡しし、孤立を防ぎます。こうして環境が整うと、入居当初は無職だったご家庭も、半年ほどで保育園と就業先にたどり着くケースがほとんどです。イベントの日、あるお母さんは「子どもが楽しむ姿を見るのは久しぶり」と話し、別の方は「困りごとを自然に相談できて助かった」と笑ってくれました。そんな声が、次の親子へつなげる力になります。



認定NPO法人 LivEQuality HUB
居住支援コーディネーター
じん ともよ 神 朋代

ホームページ: LivEQuality
<https://livequality.co.jp/hub/about>

さんぐりあ編集委員がおすすめるモノ・ヒト・メディア情報

NANGOC RECOMMENDS

なんごりこめんず vol.80

このコーナーでは皆様からの「りこめんず」を募集しています。NGOに関するあらゆる「おすすめ」の情報をおよください。
e-mail: info@nangoc.org



新栄『のわ』

中島正人の
オススメ

人と人とのつながりを通して、新しい暮らしを考える。この不思議な場所に出会ったのは、ここであったあるトークイベント。ここのカフェ『パレル』でランチもいただいた。日替わりごはんを称し、いろいろな方が思いのこもった食を提供している。

『のわ』代表の新見 永治さん、新栄画廊を父から引き継ぎ、貸画廊に加えてイベントなども開いて模索していた折に、渡航した先のイギリスで出会ったのが、アーティストが行政とも連携して市民に開放されたスペースを運営している姿。パブリックとアートが繋がっていた。

3年前からこのスタッフとなった吉子 侑乃さん。大学で現代美術・インステレーションを学んだ後は一度別の会社に就職したものの、新見さんの思いにぴったりとはまって、人と人を繋いでこの場を盛り上げてきた。月に2日開く「だれでも食堂」は、地域の居場所づくりを目指している、こども食堂。周辺で暮らすフィリピン人の子供も来るといいます。この日も取材中に、奥のソファで少年がひとりくつろいでいた。



名古屋市南区新栄2-2-19 新栄グリーンハイツ105



ブリューパブ

おおぞね

桜井裕子の
オススメ

BREW PUB ŌZONE

大曽根駅から商店街を歩いて5分ほどの場所に、クラフトビールが飲める店がある。醸造されたビールをタップからいただける。ビール好きにはたまらない。種類も豊富で、瓶詰めされたものだと15種類以上。その初号が麦わら帽子のおじさんラベルのKENZO IPAだ。

ブリューパブは、パンの販売で知られている「わっぱん」と同じ、わっぱの会が運営している。約50年前に障がいを持った人も一緒に生活し、共に働く事業所作りが始まった。近年はいろいろな理由で社会的に働きにくい人のための社会的事業所へと変わってきた。その後、大曽根のシャッター商店街の再生に手を挙げ、代表がお酒好きだったこともあり、醸造からつくるビール店「ブリューパブ」が誕生。初号ビールは代表の名前の斎藤 縣三から命名された。

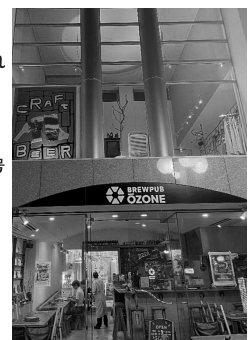
メニューのソーセージは、山のハム工房ゴーバル、ビール粕を豚のエサにしたSDGsな取り組みのいさむボークなどあり、生産者や料理にもこだわっている。

それから、様々なビールの原料に使用したのは、青梅、いちじく、いちご、きしめんなど地域の生産者とコラボし商品化された。2階に上がれば壁画が見られる。そんな魅力がたくさん詰まったお店、ぜひ行ってみたい。

愛知県名古屋市中区大曽根2丁目11番8号
TEL 052-913-3201
<https://ozonebeer.com/>



営業時間
平日 16:00~22:00
土日祝 13:00~22:00
定休日 毎週月・火曜日
(月曜日が祝日の場合は火・水曜日)



Nたまのいま

No.52



Nたま20期生 いわの れいな
岩野 玲奈さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てるコミュニティカレッジ”（通称Nたま）。2002～2024年度までの21回で（2004年、2020年度はお休み）、研修を受けた方は297名。

約半年間の研修を終えた卒業生たちは、今どこで、どんな活動をしているのでしょうか？ 第52回はNたま20期生、現在は名古屋NGOセンターの職員としてNたま研修を運営している岩野玲奈さんにお話を伺いました。

Nたま生からスタッフとして運営する立場に

■Nたまに参加したきっかけ

私は東京出身で、愛知県にある貿易関係の商社に就職しました。大学が外国語学部ということもあり国際関連の仕事をしたかったのですが、商社に入っても大きい企業になればなるほど自分が会社の駒になってしまい、直接現地の人と一緒に活動することができないのです。

そういった企業ではできないことをしたいという思いからNGOに興味を持ち、2018年にネットで見つけてNたまの資料を取り寄せて、その後結婚を機に退職して自分の時間を持てたこともあり、2022年のNたま20期に参加しました。愛知県に住むようになって、日本に住んでいる外国人が苦しんでいるのを見て、何か自分で行動を起こしたい、閉鎖的になっている日本人の感覚をオープンにしたいという思いもありました。

■印象に残っている学び

この「Nたまのいま」でたびたび紹介されていますが、やはり池住義憲さんのお話が一番印象に残りました。「誰のために、どのような仲間と、どのような活動をするのか」をそれ以来ずっと考えています。また伊田広行さんの主流秩序に依存しない生き方も感銘を受けました。

Nたまのフィールドワークは高山で行うことが多いのですが、20期は田原市で、地域の魅力を見つけるために住民にインタビューをしました。例えば「どう思いますか」という質問は抽象的なので期待した答えが返ってこないことがあります。だからといって誘導尋問的な聞き方もよくありません。本人が気づいていない何かをこちらが見つかることはとても勉強になりました。

市民活動では「対話」が求められますがそれがいかに重要で難しいかが体感できました。

マネジメント講座も良かったです。小グループで主体的に調査して企画を実施する講座です。私のグループは「外国人の技能実習生」をテーマに、技能実習生の方に直接取材をしたりしました。報道では劣悪な労働環境を強いられている方が多く取り上げられますが、その方はきちんとした企業で働いて特に不満もないようにでした。報道を鵜呑みにするのではなく、自分で調べることの重要性を感じました。

■広報や寄付に取り組んで

Nたま期間中に加盟団体のホープ・インターナショナル開発機構（以下「ホープ」）でインターンをして、Nたま修了後も1年間アルバイトをしました。主にホームページやSNSなどの広報を担当しました。SNSという「映え」を求めると思いがちですが、そういう世代は30～40歳代に移行して、10～20歳代の方は地味な日常を積み上げるようなものが好まれています。そういった世代別の特徴を踏まえて情報を発信しました。

ホープで活動するうち、寄付をする文化をどうしたら広めることができるのか考えるようになりました。日本人は寄付を特別なことのように捉える人が多いですが、もっと気軽にアイドルやアニメの「推し活」のように感じてほしいです。ラ

イブに行ったりグッズを買ったりして、周りの人は気づかないけど「推し活」に1年で10万円使う人もいます。寄付を「推し活」のように意識を変える広報をSNSを使ってしたいですね。

■主催する側になって

この4月から名古屋NGOセンターの職員になりました。Nたまやホープでの経験を生かして、Nたまや国際協力カレッジの企画運営や広報全体を担当しています。

今期のNたま生は8人です。今までで市民活動やボランティアをしたことがない方が多い期になりました。さっそく池住さんの講座を受講したのですが感銘を受ける方が多かったようです。まっさらな状態で聞いたのが良かったかもしれません。



大学でNたまを募集している岩野さん

（担当：丹羽）

セ ン タ ー の 動 き

2025年5月の総会で役員が改選され、裏見登志子、戸村京子の2人の理事が退任し、新しく3人の理事が加わりました。共同代表は引き続き坂茂樹、中島隆宏が務めます。

退任理事あいさつ

うらみ としこ
裏見 登志子さん

DEI(多様性、公平性、包括性)の取り組みを縮小、否定する流れが国外においても、また参院選では国内においても見受けられました。そのような流れの中、社会課題に向き合い、人々の幸せに貢献するNGOの役割は今後ますます重要になると思います。

中でもネットワークNGOとして、名古屋NGOセンターは中部地方の中核としての重責を負っていると思います。

理事会では毎回真剣な話し合いがなされ、時には議論が白熱することもありました。今後も様々な立場の人、様々な世代の人が理事として参加し、多角的な視点から課題を検証し、名古屋NGOセンター憲章を遵守していくことを願っています。

とむら きょうこ
戸村 京子さん(チェルノブイリ救援・中部)

私は2007年に理事として名古屋NGOセンターに関わり、以後17年間にわたり皆様にお世話になりました。そして、2011年より10年ほど事務局長を務めましたが、NGOセンターにどのようにお役に立てたか心許なく、申し訳なく思っています。その間、2010年度外務省NGO研究会「企業との連携(CSR)」や同「環境(COP10)」の取組みで、多くの加盟団体の皆様にヒヤリング調査をさせて頂いたり、JICAの研修、「国際協力カレッジ」等、多くのテーマに取組み、また外務省「NGOスタッフ長期スタディプログラム」ではウクライナ・キーウの団体での研修(所属団体として)の機会を得るなど、自身の所属団体、また個人として、とても大きな学びを得させていただきました。

本当に感謝に堪えません。NGOセンターにつながる若い世代の皆さんの、これからのご活躍をお祈りします。



新理事紹介

かんだ
神田すみれさん

Nたま5期でお世話になり、市民としてどうあるべきか、NGOとは何かを考える中で、今の私の軸や価値観が作られました。

ここで得た仲間との繋がりも大きな財産です。いただいたご恩を少しでもお返しできるよう、理事として微力ながら貢献してまいりたいと思います。皆さまと共に活動できることを楽しみにしております。

たぐち ひろあき
田口 裕晃さん

名古屋NGOセンターの事務局スタッフとして活動する中で、多くの仲間や団体との出会いに恵まれ、貴重な学びと経験を得ることができました。ともに活動してくださった皆さんに、心から感謝しています。これからは理事という立場で、これまでの経験を活かし、センターの次の一步をみなさんとともに考えていきたいと思っています。

ふたかど ともみ
二角 智美さん

2010年度にNたま受講(8期生)、2015年度に名古屋NGOセンターで1年間インターンをさせて頂きました。今の私があるのは、名古屋NGOセンターのおかげと言っても過言ではありません。少しでも恩返しができればと思っています。また、この機会に私自身も多くのことを学びたいです。



活動報告カレンダー 2025年3月1日～2025年7月31日

●ネットワーク

- ・「ガザの恒久的停戦と、パレスチナの和平を求める」声明に賛同
- ・「子どもたちが安心・安全に暮らすために」(主催：東海市民社会ネットワーク)(6/28)参加
- ・「参議院選挙にあたり排外主義の煽動に反対するNGO緊急共同声明」に賛同

●コンサルティング

- ・NGO相談(外務省NGO相談員)：3～7月 329件、第1回連絡会議(6/12)

●情報収集・発信

- ・名古屋NGOセンターホームページ リニューアル(4/20)
- ・会報『さんぐりあ』5月号発行(1,000部)・発送(4/25)
- ・情報発信

ホームページ	センターからのお知らせ更新回数	19回
	中部NGO情報ひろば更新回数	31回
facebook	フォロアー数	1,445人
Instagram	フォロアー数	443人
メルマガ	登録数	235人

●政策提言

- ・NGO・JICA協議会 参加(3/11)
- ・NGO・外務省定期協議会 ODA政策協議会 参加(3/18,7/23)
- ・「国内外の市民社会スペースの現状を知り、今後の課題について考える集い」(主催：NANCIS) 参加(7/10)

●人材・活動育成

- ・東海地域NGO活動助成金 最終選考会・助成団体決定(3/1)

NPO法人 幸縁	200,000円
一般社団法人 Bridges in Public Health	198,180円
(特活) RASA-Japan	200,000円
一般社団法人 DiVE.tv	200,000円
(特活) 外国人ヘルプライン東海	200,000円

●運営

- ・定時総会(5/24)
- ・理事会(4/22,5/24,7/22)
- ・事務局会議(3/19,4/9,5/13,6/10,7/8,8/6)

- ・あなたの挑戦をサポートするNGO研修～持続可能な運営への第一歩 講座(3/13,4/19)、伴走支援(アイキャン、幸縁、アジア保健研修所、外国人ヘルプライン東海)
- ・NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ2025(Nたま) 説明会(6/19,22,25,28)、入学式(7/26)
- ・JICA新人研修 受け入れ・交流(6/24)

会員・寄付者、協力者の紹介 (順不同・敬称略)

2025年3月1日～2025年7月31日

●賛助会員(個人/更新)

(更新(賛助会員A))

門田一美、加藤信一、戸村京子、斉藤尚文、近藤公彦、大川元嗣、竹内智子、山田隆円、小久保紀子、谷口千賀子、石井りか、西口のぞみ、園部吉規、松本恭一、小田孝、鉄井宣人、松田翼、西井和裕、廣井修平、松田則雄、大矢健治、平野木恵、水谷洋子、藤村昭子、福田美津枝、山本卓也、岡田雅宏、高木雅成、中島正

(更新(賛助会員B))

平井英司、中野行俊、伊佐次歩、田中幸男、裏見登志子、高田信英、久保田蒼、中垣貴裕、中島隆宏

●寄付者

【一般寄付】

二角智美、加藤信一、横山紀子、募金箱、匿名

【東海ろうきんNPO寄付システム】

伊藤武士、宇野菊夫、大野博人、後藤文昭、水野愛、山田志帆、松下和哉、中島正人

【Nたまサポーター】

(継続(年間、マンスリー)サポーター) 原田篤実、加藤里紗、塩田真也、大須賀恵子、春田みな美、松浦史典、栗田佳典、松浦良子、木村容子

(スポット) 中野行俊、伊佐次歩

(READYFOR) 松本恭一、尾崎寿光、谷川毅、斉藤尚文、坂部武志、近藤公彦、中尾さゆり、藤井朋子、斉藤順子、桃井義博、遠山涼子、山本梨恵、裏見登志子、龍田成人、鉄井宣人、加藤里紗、高木雅成、二角智美、吉岡嗣晃、吉川典子、中島隆宏、笠原聡太郎、河合良太、天野友貴、北村祐人、株根秀之、磯村さやか、小池康弘、和田さとみ、筒井広治、佐藤元紀、貝谷京子、小森夏未、高野葵、大川元嗣、瀬川義人、丹羽俊策、横井春香、森元裕恵、中垣貴裕、水谷洋子、渡辺祐樹、吉田弘生、高橋美和子、佐藤光、黒田朱里、青木研輔、熊澤友紀子、関口威人、神谷周作、池住義憲、工藤泰三、落合佑哉、田中典子、三ツ松由有子、藤本潔、窪川佐紀、和田信明、岸本正好、村田元夫、寺田裕美、鈴木二葉、松中みどり、和喜田恵介、青山岳史、浅野愛美、川島知司、福嶋聡子、櫻井裕子、中島正博、大屋正人、前倉英人、中島正人

(協賛) 連合愛知、岡谷鋼機株式会社

【外貨】岡田淳子、大矢健治、匿名

【アフィリエイト】アマゾン・ヤフー36円

【物品】廣井修平

●協力者

【4/25発送作業ボランティア】

ムッチ、のりちゃん、マサ、いっちゃん

事務局のひとこと

根拠のはっきりしない“外国人”差別やヘイトなどが問題となってます。当事者によりそう「専門家」としてのNGOの発信力をたかめていく努力がもとめられているように最近感じています。難しいですけれど。(事務局担当理事:八木)

編集後記

今回、初めて「さんぐりあ」の特集を執筆いたしました。生成AIという新しい技術を、非営利の現場でどう活かせるか——その可能性と課題を探る内容です。単なるツールとしてではなく、組織や人の「あり方」にも関わるテーマとして読者の皆さんの活動にも、何かヒントを届けられたら嬉しいです。(内藤)

今号から「さんぐりあ」のレイアウトに関わらせて頂きました。大川と申します。このような誌面のデザインに携わるのは初めての経験で、レイアウトやツールの操作等まだまだ慣れないことも多くあります。今後の目標として、読者の皆さんに伝わりやすく読んでみたいと思わせるような誌面を作成できるように心がけたいです。(大川)



ザアタル クラッカー

パレスチナより届くハーブスパイス、ザアタルを使って
わっばんさんがクラッカーに仕上げてくれました！
塩とごまの風味も加わり、おつまみにぴったり！
伝統衣装姿のパッケージにもこだわりました♪



★11月2日(日)はパレスチナ展@栄オアシス 詳細はSNSにて



顔の見える店～FAIR TRADE 風s (ふ～ず)



〒462-0844 名古屋市中区清水5丁目10-8
グリーンフェロービル 3C (EV有)
営業日/月・木・金・土 12時～17時
Tel/070-9120-8820
Mail/huzu.fairtrade2@gmail.com



JICA中部オフィシャルサポーター
空木マイカ × フォトジャーナリスト 渋谷敦志

the Colors of Brazil

日本ブラジル友好交流130周年記念写真展

2025年9月18日(木)～2026年2月1日(日)
10:00～18:00 名駅・ささしま

アクセス | 名古屋駅から徒歩13分
休館日 | 月曜・年末年始 (祝日の場合は開館、翌平日が休館)

130 ANOS DE AMIZADE BRASIL JAPÃO
日本ブラジル友好交流 130 年

なごや 地球ひろば

JICA

発行：特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
会報編集委員：市川隆之、中島正人、廣井修平、貝谷京子、
桜井裕子、丹羽輝明、内藤壽久、村山佳江
レイアウト：桜井裕子、大川真依
発行日：2025年10月14日
印刷：山本印刷株式会社

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F
TEL & FAX: 052-228-8109 URL: <https://www.nangoc.org>
E-Mail (代表): info@nangoc.org

会費・寄付は以下よりお願いいたします。

①クレジットカード <https://nangoc.org/support/>

②郵便振替 (口座番号) 00860-5-90855 (口座名) 特定非営利活動法人名古屋NGOセンター